

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2022年
1月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 瀬山 会治

印刷所
文明堂印刷所

神戸教区第九十一 (定期)教区会開演説

主教 オーガスチン 小林 尚明



を開催するにあたり、教区事務所二会場、各教会十五会場にご参集頂き、心から感謝申し上げます。

また、昨年に引き続き今年も教区会をリモート形式で行うために、ご奉仕くださった「リモート教区会準備委員会」の皆様へ感謝しています。今回もリモートですので、教区会の常任委員、特に議員資格調査委員の指名について、若干の人数の変更があることをご理解ください。準備委員の皆様には十分な備えを

ただきました。しかし機械のことですので、思いもよらないことが起こるかもしれません。その際は、ご理解いただければ幸いです。コロナ禍の中、リモートで行われる教区会に聖霊なる神様のお導きを祈りながら、始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

人事

今年度の教役者の動きですが、八月一日(日)ブラジル在住の松尾常雄司祭が八十四歳で逝去され、三日(火)サンパウロの教会で葬送式が行われました。九月二十日(月)ヨシユア前田次郎司祭が八十九歳で逝去され、ご遺族の希望により、家族葬として通夜の祈りを二十一日(火)、葬送式を

二十二日(水)大聖堂で行いました。

二月十一日(木)日本聖公会組織成立記念日)コロナ禍により、出席者を限定した形でリモテ遠藤洋介執事の司祭按手式を大聖堂で行いました。昨年に続き、今年も新司祭が与えられたことを感謝します。しかし、現在、神戸教区には聖職候補生がおりません。このままでは将来的に神戸教区も深刻な聖職不足に陥る危険があります。どうぞ、聖職者が与えられるようにお祈りください。四月に中規模の人事異動を実施しました。教役者不足が深刻な東北教区の吉田雅人主教からの強い要請と遠藤洋介司祭の将来を考慮して、同司祭の三年間の東北教区出向を決断しました。東北教区での遠藤司祭の働きと経験のためにお祈り下されば幸いです。

コロナ対策

今年一月に兵庫県に第二回

目の緊急事態宣言が発令されました。その後四月、八月と延べ三度の緊急事態宣言とその間に三度のまん延防止等重点措置が実施されました。兵庫県以外にもそれぞれの県単位で、感染防止の指導が行われ、各教会はそれらの指示によって、教会委員会の協議と主教との相談により公開の礼拝の自粛、陪餐の自粛を余儀なくされました。そうした中、「新型コロナウイルス感染症対策室」の働きに感謝しています。詳しい報告は報告書にあります。状況が変わるたびに対策室で協議していただき、その都度主教に方針を示していただいたことに感謝しています。また対策室が示した「ウイルス感染症拡大における教会活動の自粛基準」、「新型コロナウイルス感染症防止対策ガイドライン」により、各教会からクラスターが発生しなかったことは、宗教法人としての最低限の責任は果たせたのではないかと

本日、ここに日本聖公会神戸教区第九十一(定期)教区会

考えています。ただ、リスクを冒してコロナに立ち向かってくださった医療関係者の方々、結果としてクラスターが発生してしまった病院や老人施設で働いておられる方々のご奉仕を感謝すると共に、神様からの励ましを祈ります。またこの感染症によって今も苦しんでおられる方々に癒しと慰めを祈ります。そして、逝去された方々の上に神様からの魂の平安をお祈りいたします。

神戸教区としての働きは、主日の特祷、聖書日課や「自宅での祈り」の式文、主日の説教動画を教区ホームページに掲載しました。「知らない牧師さんたちの説教が聞けて良かった」との評価もいただきました。録画、編集のご奉仕を感謝しています。

各教会においても、YouTube、ZOOM、LINEなどを使って、対面での礼拝が公開できない中、リモートで礼拝を守っている教会がありました。ま

た、この教区会をはじめ、会議の多くがリモートで行われることも定着しています。十県にまたがる神戸教区にとって、リモートが非常に有効なツールであることは明らかです。もちろん、対面の良さを否定するものではありませんが、今後もリモートを活用しつつ、この広い神戸教区を豊かな一つの教区とする工夫をしていければと願っています。

西日本宣教協働区

昨年十月に行われた日本聖公会第六十五定期総会において「日本聖公会法規の一部を改訂する件(宣教協働区・伝道教区制の設置)」が提案され、可決されました。このことにより、日本聖公会を三つの宣教協働区に分け、各々の

宣教協働区において、区内の運営、宣教・牧会などについて協働を推進すること、また教区は教区会の決議と総会の承認によって教区主教を置か

ない伝道教区に移行することが可能になりました。私たちは、西日本宣教協働区として、九州教区、沖縄教区と共に活動していきます。詳しい報告は、報告書にあります。この活動の中で一番学んだことは、各教会が宣教を進めていく時、すぐに効果のある解決策はなくても、ていねいな牧会(それは牧役者が一人一人の信徒に向き合って、その必要に耳を傾けることから始めていかねばならないことです)と、地域の問題(ごども食堂など)に牧師だけでなく教会として積極的に関わることで、教会が活性化してくる、ということ。この二点、私たち神戸教区も宣教を進めていく時に忘れてはならないことと考えます。

神戸教区マイラ姉支援室

二〇二〇年十月フィリピン聖公会北ルソン教区信徒マイラ・エステバン・ドッキョゲンさんが、香川県内でお仕事

からの帰宅途上、交通事故に遭い瀕死の重傷を負いました。神戸教区は、支援室を立ち上げ、支援してきました。また来日されたご家族への支援も含めて『良きサマリア人募金』を行いました。全国からた添ってきました。全国からたくさん募金を頂き感謝しています。十月十七日(日)高松聖ヤコブ教会の巡回日礼拝にお母様のメロディさんが出席され、これまでの教区の支援について、大変感謝しておられることを伝えて下さいました。この先の見通しはまだまだはつきりしませんが、マイラさん、ご家族の支援に心を寄せていきたいと考えています。

神戸教区宣教方針の策定

昨年の教区会でお話した神戸教区宣教方針の策定について、今年度から教区宣教委員会のメンバーが改選され、新しい委員で話し合いを行ってきました。問題点をていねい

に押さえた報告書が提出されています。一つ一つの課題が大切で、優劣はつけられませんが、これらの課題に対してどう対処していくか、牧役者、信徒へのアンケートをとり、宣教方針を策定していくことが二年目の課題と考えています。

特任聖職志願者の発掘、養成、教区民への啓発

特任聖職について、神のおとずれでお伝えするとともに、神学塾運営委員会委員長の中原康貴司祭と特任聖職の教育・カリキュラムについて、大まかな枠組みを作ってきました。特任聖職を目指すと言いますが、それぞれの志願者には、それまでのキャリアや神学の学びに違いがあります。それぞれの志願者に対応したカリキュラムを作る必要があります。いまだ特任聖職の志願者は現れていませんが、志願者が現れることを待っています。この人に特任

聖職になってほしいと期待できる人がいれば、まず信徒奉事者から始めていただければと思います。

今年度は神学塾で「コロナ禍における教会」をテーマに、リモートでの三回の神学塾セミナーが開催されました。私も一度参加しましたが、コロナ禍の中でも新しい可能性を秘めた働きと思います。コロナ対策室の行った主日説教の動画の掲載と共に、新しい手段として大いに期待します。問題は、こうしたリモートに不慣れな方々にどう対応していくかです。例えば、所属する教会に集まってセミナーに何人かで参加する、ということも出来るかも知れません。

選ばれる教会

昨年の教区会を終えて、十二月六日、米子聖ニコラス教会で二名。二十日、下関聖フランシス・ザビエル教会で一名の堅信式を行いました。今

年になって、緊急事態宣言が吹き荒れましたが、神の国は着実に前進して、七月二十五日、神戸聖ペテロ教会で一名。八月二十九日、徳島インマヌエル教会で一名。十月十日、神戸聖ヨハネ教会で一名。二十四日、富岡キリスト教会で一名。三十一日、福山諸聖徒教会で一名。十一月十四日 広瀬基督教会で二名。二十一日、岡山聖オーガスチン教会で一名の堅信式が行われました。また、二十八日、松山聖アンデレ教会で一名。十二月十二日広島復活教会で一名。二十六日、徳島インマヌエル教会で一名の方の堅信式が予定されています。

こうした堅信受領者が与えられることは、それぞれの教会の宣教と牧会の努力、また祈りの賜物と感謝し、共に喜ぶたいと思います。

この堅信受領者の数は、今年の各教会の逝去者の数に比べたら、大変少ない数字だという見方もあります。教会は

日本の人口同様縮小の傾向にある、という指摘もあります。しかし、神様は私たちが活動するためには、その数に頼るのではなく、神様の力に頼って歩んでゆくことを教えておられます。



イスラエルがまだ王国になる前、士師と呼ばれる指導者たちが周りの部族から自分たちを守った話を覚えておられるでしょう。士師ギデオンは、三万二千人の人々を集め

てメディアンの軍隊と対決しようとした。ところが、神様は、それを多すぎると言って、最後は三〇〇人にまで減りました。その時の神様の言葉は、

『主はギデオンに言われた。「あなたの率いる民は多すぎるので、メディアン人をその手に渡すわけにはいかない。渡せば、イスラエルはわたしに向かつて心がおこり、自分の手で救いを勝ち取ったと言うであろう。』(士師記七章二節)

神様に用いられる私たちは、自らを誇るのではなく、弱い私たちに働く神様の力を誇ることが大切なのです。皆さんのよくご存じの善いサマリヤ人のことも考えてみてください。ユダヤ人の社会の中で、指導的立場にある祭司やレビ人は、傷ついた旅人を助けられませんでした。しかし外国人であるサマリヤ人は、『その人を見て憐れに思い』(ルカによる福音書十章三十

三節)、自分の予定を変更してまで、その人を助けるために力を出せたのです。どうしてそんなことがこの人にはできたのでしょうか？

それは、彼がユダヤ人社会の中であって、よそ者として扱われ、いつもつらい思いをしながら生きていたからでしょう。それは肉体的と言うより、精神的な痛みだったでしょうが、その経験が彼を動かしたのです。彼は道で倒れている人の痛み苦しみが、自分のことのように感じ取れたのです。それが、神様の力が働くかということではないでしょうか。

パウロはそのことを、コリントの信徒への手紙二の十二章ではっきり語っています。『それで、そのために思い上がることのないようにと、わたしの身に一つのとげが与えられました。それは、思い上がらないように、わたしを痛めつけるために、サタンから送られた使いです。この使

について、離れ去らせてくださるように、わたしは三度主に願いました。すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足していません。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。』

(コリントの信徒への手紙二 十二章七節〜十節)

ここで私は、はっきり申し上げたい。強い人は弱い人を助けることはできない。弱い人こそ弱い人を助けることができる。なぜなら、弱い私たちが奮い立たせるように神様の力が働くからです。

コロナウイルスや、経済的に貧困の中で苦しんでいる人々の重荷を担える教会にな

りましょう。そして主を誇りとし、人々の良き友となれる教会に成長したいと思えます。たくさんのことをお話しました。これらのことをご理解いただき、本年にもまして来年度も神戸教区に対してご支援をお願いして、私の開会演説といたします。

(神戸教区主教)

松尾常雄 司祭を偲ぶ



松山→神戸→ブラジル

アンデレ松尾常雄先生は愛媛県のご出身。松山の教会で

加藤九十九牧師に洗礼を受け後任の八代欽一牧師の勧めで

松蔭短大へ。八代斌助主教の

薫陶をうけ一九六〇年一月

執事に按手された。

大きな期待を背に一九六一年六月二日、神戸港からブラジルへ旅立つ。八代斌助師の日記(聖戦の旅)には「六月二日、三時松尾を送りに第四突堤に行く。大変な人出だ。みんながよく来てくれた。欽は教え子だけによく世話をしていた。涙が出て仕方ない。出帆前にこっそり帰って来る。

松蔭の生徒などを含めて、七、八十名が来ていた。原が指揮する『神とともにいまして』もよく、素晴らしい壮行会だ」

ブラジル聖公会で司祭按手を受け、リオデジャネイロ聖パウロ教会等で牧師をつとめ二〇〇二年六五歳の定年まで四十年にわたりブラジルでの宣教に励まれた。

日系ブラジル人の為に

一九九一年七月、松尾先生は、北関東に出稼ぎにきている日系ブラジル人の為に奉仕すべく昔のロダ館に居住、松

山工高出の技術を生かし、週日は東大阪の工場で働いて生活を支え、休日は長距離バスで北関東に出かけ、各地に散在する日系ブラジル人を訪問、激励された。この奉仕は翌年六月の帰国まで続いた。

支援体制の整わない活動で終わったのは残念であった。

神戸での奉仕

ブラジル聖公会定年退職後、単身来日された松尾先生は、神戸教区での働きを希望され古本主教の配慮で徳島聖テモテ教会に定住して五年間

嘱託牧師として奉仕された。二〇〇八年、呉信愛教会に転任されたが、この頃からは先生の体調にかけりが見え、本人は頑張っておられたが最後は帰国を決意され、二〇一一年三月、夫人や娘さん達の待たれるブラジルに戻られた。

帰国後の十年、徳島出身の奥様や現地育ちのお嬢さんに囲まれ良きおじいちゃんとして暮らされたのではないかと

国際的な伝道者

八代斌助主教の大きな期待を背にブラジルに渡った松尾先生のご苦労は大変だったと推察する。在留邦人社会でも日本語の話せる人口は減る一方。待遇も良いとは思えない。ブラジル聖公会聖職として黙々と、そして四十年余のご奉仕はご苦労そのものであったと思う。

ブラジル定年後の来日では大きなお働きを期して帰国されたが、ブラジルと日本の違いに戸惑いをされたのではないか。

或人が「松尾先生、頭の中はブラジル人に近いのでは」とつぶやいた。然し、松尾常雄先生は文化の異なる、そして遠く離れた二つの国をまたにかけ、神様のご用を見事になしとげられた国際的な伝道者であった。

松尾先生の御国における御霊の平安をお祈りする。

藤合正一
神戸聖ニカエル教会信徒

前田司祭と 前田理事長



◆ニコニコ笑顔◆

九月二十日の朝、私たちの敬愛する前田司祭が天に召されました。奥様の千代子様が一十一日に逝去され垂水のチャペルでお見送りした直後でしたので、ご家族の皆様も本当にお辛かったことでしょう。

お二人とも小林主教の篤い祈りの内に旅立たれました。まるで千代子様の後を慌てて追ったように天に召された前田司祭ですが、お嬢様の圭子さんは「違うの、お母さんが早く来てって呼んだのよ」と心身共にお疲れであったと思うのですが、お父様譲りのサービスピ精神で笑みを浮かべておられました。

いつもニコニコ、誰とでも笑顔で接しておられた前田司祭。とくにミカエルでは松陰の卒業生で先生の大ファンがたくさんおられ、いつも楽しくそうに歓談されておりました。

◆モーレッツ牧師◆

前田司祭が現在私の勤務する学院に着任されるまでは、二〇年以上に渡り姫路顕栄教会で司牧されておりました。

今の若手教役者には想像もつかないかも知れませんが、小林主教をはじめ私らの世代が神学生になった頃の先輩聖職は、それはもう現役バリバリの時でモーレッツに牧会をされておりました。そしてさらにその上の世代は私の親父を含めて軍隊帰りの聖職が多く、もつと強烈なイメージが子供心にも残っています。

◆たご焼き◆

前田司祭も例にもれず、確か私が大学生の頃、姫路の教会バザーを手伝いに行ったことがあるのですが、その時たご焼コーナーを頼まれて見て

ビックリ!!

何と水で溶かしたメリケン粉が、青くて丸いお馴染みのゴミバケツ、しかも一番大きなサイズに満タンに入っていたのです。さらに驚いたのは焼いても、焼いてもどんどんお客さんが絶えず、バザー終了の二時間ほど前に見事完売しました。我が人生で後にも先にもあれ程たご焼を焼いたことはありませんでした。

それほど教会だけでなく、付属幼稚園やボーイスカウトの人たちもわんさと押しかけ、日頃の「前田司祭の伝道牧会の妻さを垣間見た思いです。皆さんの教会にも姫路顕栄教会百年誌が送られていると思います。前田司祭のページをご覧いただいたら、モーレッツに牧会をされていた当時の逞しいお姿を見ることができま

◆理事長になって◆

前田司祭は学院に着任して十五年ほど経って理事長に就任しますが、相変わずいつもニコニコ、サービスピ精神旺

盛の司祭でした。世の中には肩書が変われば人格まで変わる人が少なくありませんが、前田司祭は最後までニコニコ司祭として周囲を和ませてくれる理事長でした。

いわゆる「戦中派」と呼ばれる先輩聖職のほとんども、厳しさの中にも本当の優しさがある方ばかりでした。

戦中戦後の壮絶な苦しみを体験されたからこそ、周りに対して常に優しい笑顔で接してこられたのでしょう。私の親父も生前よく「自分に一番厳しく、信徒に優しい牧師になれ」と申しておりましたが、今更ながらその言葉を噛みしめつつ反省する次第です。

そんな前田司祭が、殊の外楽しみにされていたのが学校のクリスマスでした。終始笑顔でまるでサンタさんがそこにいるようでした。ひよっとしたらサンタクロースの最高プレゼントもまた、彼の笑顔だったのかも知れません。

主イエスも人々に「柔和な人々は幸いである。その人たちは地を受け継ぐ」(マタイ五

章五節)と教えられましたが、前田司祭の笑顔を思い出しながら、これからもそれぞれの教会で主の福音を満面の笑顔で宣べ伝えましょう。

(司祭八代 智)

第九十一(定期) 教区会報告

十一月二十三日(火・祝)、神戸聖ミカエル大聖堂、他十六カ所を会場に、日本聖公会(神戸教区第九十一(定期)教区会)が開催されました。今年も、新型コロナウイルス感染防止の観点等から、リモート開催となりました。リモート開催に当たり、リモート教区準備委員会が設置され、五月から準備が進められました。当日は、教役者議員二十二名、信徒代議員三十三名が出席し、全ての議案が可決されました。また常置委員選挙と日本聖公会総会代議員選挙が行なわれ、次の方々がそれぞれ当選しました。(六頁へ)

二〇二二年常置委員

〔聖職〕 司祭 瀬山 会治

司祭 上原 信幸

司祭 林 和広

〔信徒〕 覚前 康子

大東 正人

弘井 宗子

二〇二二年総会代議員

〔聖職〕 司祭 瀬山 会治

司祭 林 和広

〔信徒〕 大東 正人

覚前 康子

〔第九十二定期教区会書記〕
司祭 浪花朋久

堅信五十年顕彰者

今年、左記の方々が堅信五十年を迎えました。おめでとうございます。

〔神戸聖ミカエル教会〕

クリステイーナ

上野 祐子

ヨハネ 北中 淳夫

アンデレ

マイケル・マクドナルド

リベカ 二見 洋子

キヤロル

キヤロル・マクドナルド

マリア 宮川 祥子

ダビデ 大内 達也

ルカ 鹿野 義郎

スザンナ 鹿野 伸子

マーガレット 戸田 和子

エリザベツ 横山 幸子

ラファエル 杉野 球

ヤコブ 戸田 武志

ガブリエル 杉野 献一

浜田 玲子

〔神戸昇天教会〕

モニカ 岩木 和子

パウロ 岩木 仁平

〔神戸聖ヨハネ教会〕

マリア 平山 耀子

ユニケ 東 よしの

〔姫路顕栄教会〕

バルナバ 森山 彰久

マリヤ 森山 たか代

セシリア 澁谷 久代

グレース 吉田 満

〔岡山聖オーガスチン教会〕

クララ 秋吉 光恵

セバスチャン

秋吉 俊邦

バーバラ 島田 順子

〔広島復活教会〕

ペテロ 西本 興太郎

〔大洲聖公会〕

マルコ 村上 秀満

〔高知聖パウロ教会〕

ルツ 松村 悦子

〔徳島インマヌエル教会〕

ギデオ 播磨 義博

フィベ 播磨 純代

〔徳島聖テモテ教会〕

ハンナ 茶谷 カチ子

鳩だより 《敬称略》

祝 堅 信

十一月十四日(日)

ルカ 吉村 勝

ドミニコ 吉村 遼

広瀬キリスト教会

教 籍 異 動

十一月二十九日(月)

ヨハネ 宮城 正太朗

米子聖ニコラス教会から

沖繩教区屋我地聖ルカ教会へ

十一月二十八日(日)

マッテヤ 谷 良孝

松山聖アンデレ教会

ご 逝 去

十一月二十四日(水)

アンナ 田中 千恵子

浜田基督教会

2月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2022年2月3日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 永野 拓也

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、ご出席される方は、事前に教区事務所までお問合せ下さい。よろしくお願致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

* 2月の記念逝去教役者

3日	司 祭	ハリー	ウッドワード
5日	司 祭	パークレイ	バックストン
5日	司 祭	ヤコブ	牧野 興三郎
5日	主 教	モーセ	村尾 昇一
6日	司 祭		竹内 宗六
7日	宣教師	ホノリア	ウォージントン
11日	司 祭	ヨハネ	中道 政市
12日	伝道師	ルツ	小南 アサ
12日	伝道師		高木 ぬひ
13日	宣教師	フローレンス	フ ァ ギ ル
16日	司 祭	ジョージ	ブ ラ イ ド ル
17日	司 祭	ジョージ	ポ ー ル
20日	司 祭	ヨセフ	田 中 愛 次
23日	伝道師		西 村 ひろ
不明	宣教師	アリス	パ ー カ